



あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM '98 10月号

平塚の仏像

十月十日(土)～十月二十五日(日)(月曜休館)



天徳寺開山在仲宗宥座像

「平塚の仏像」展は、平成元年に開催して以来、二度目の開催になります。

平塚市では、昭和55年、教育委員会社会教育課が、跡見学園女子大学教授三山 進氏を団長とする「平塚市仏教彫刻調査団」を編成、本格的な市内各寺院等の仏像調査を開始しました。その結果、調査が完了する平成2年までの10年間に、110か所、320軀を越える仏教彫刻の所在が確認され、本市は、鎌倉周辺地域でも、とりわけ質・量ともに豊富な作例の多い地域として注目されました。

今回の展示では、そうした仏像の中から平安時代～江戸時代に至る各時代の仏像を、所蔵寺院、檀信徒、お堂管理責任者等のご協力を得て出展・公開し、併せて地域文化財に対する理解を深めることを目的に開催いたします。

出品仏像は、平成7年11月、盗難に遭い無事に戻った国指定重要文化財、木造不動明王立像をはじめ、平塚市指定重要文化財、木造地藏菩薩坐像(中原地藏堂)・木造薬師如来坐像(平等寺)・薬師如来立像(上平塚薬師堂)の三軀を含む、十二軀を博物館特別展示室で公開いたします。

また、特別展期間中の10月21日(水) 神奈川県立歴史博物館主任学芸員 薄井和男氏を講師に「鎌倉の仏像を訪ねて」と題し、記念行事を開催いたします。定員は抽選で25名。詳しいことは、平塚市博物館0463-33-5111へお問い合わせを。

博物館実習生が展示した寄贈品コーナー

9月9日から9月17日（正味一週間）の間、博物館実習生として17大学20名の学生が実習を行いました。初日は館の概要説明と常設展示についての意見交換をし、2・3日目は各分野に分かれて資料整理を行い、4日目は漂着物を拾う会に参加した後、セミの抜け殻標本を整理しました。残り3日間で、寄贈品コーナーの展示製作を行いました。テーマは「貝塚おしながき 五領ヶ台貝塚の食生活」
10月30日（金）まで展示していますので、是非博物館まで御来館下さい。



体験記

まず私達に与えられたのは多くの資料と3日後の締め切りでした。1日目は何を展示し、どう構成するのか、4つの班にわかれてコンペを行いました。実際に使われる案は4つの内のひとつ。自分のアイデアの生き残りをかけて、熱い議論が戦わされました。多数決によってひとつの案が選ばれましたが、それぞれの案の良いアイデアを拾って行って、最終的にまとまったのが今回の展示です。20人もいると船頭多くして...になりがちなところを明石先生、浜野先生にうまく導いて頂いた気がします。すべてを手づくりで仕上げるにはあまりにも少ない時間でしたが、細かいところにもこだわって実習生らしい展示を作り上げられたのではないかと思います。

展示紹介

展示は3つの小コーナーで構成されています。

海の恵み...縄文時代の人々は海から何を採って食べていたのか。

《魚、貝》五領ヶ台貝塚からは内湾で採れる魚貝と外海で採れる魚貝の両方が見つかっていて、漁

場に恵まれていたことが分かります。今では有明海にしかないハイガイも出土していることを考えると、昔の海は今よりも暖かかったようです。

《イルカちゃん》イルカの骨格標本は、最初は壁に掛ける予定だったのですが、固定するのが難しい、大きくて邪魔などの理由で実現が危ぶまれていました。今はガラスケースの中でニカニカしています。五領ヶ台貝塚だけ

でなく、他の貝塚からもイルカの骨は見つかっています。どのように捕獲したのかはわかっていませんが、舟を使って湾内に追い込み、

モリのようなもので刺したのではないかとわれています。

五領ヶ台式土器とは...五領ヶ台式土器の学術的価値と実物の紹介。

《五領ヶ台式土器》五領ヶ台貝塚で見つかった縄文時代中期初頭の土器は、南関東の土器の年代を知るときの目安になっています。五領ヶ台式土器の紋様の特徴は、半分に切った竹を使った爪形文、平行線文です。展示では紋様の紹介もしています。

山の恵み...縄文時代の人々が食べていた山の動物と、植物。

《様々な食物》食物を得るための道具類と、それによって得られたと考えられる動物の骨や植物を紹介しています。植物の遺物は保存状態が良くないと出土されず、五



領ヶ台貝塚では見つかっていません。市内では上ノ入B遺跡で縄文時代の球根やクルミが見つかったので展示しましたが、五領ヶ台の人々も口にしていただいたと思われます。縄文時代に思いを巡らすきっかけになるのではないのでしょうか？

《黒曜石》黒曜石について取り上げて、縄文人の道具へ

のこだわりについて触れてみました。遙か神津島や長野県でとれた黒曜石が平塚から出土しています。縄文時代のネットワークの広さが窺えます。

(実習生：松浦、平川&蓮花記)

今月のプラネタリウム

注目！しし座流星群

11月8日まで

今月のプラネタリウムでは、この秋注目の天文現象、しし座流星群を解説しています。

1966年

流れ星というのは、宇宙に浮かぶ小さなちりのようなものが地球に衝突し、地球をとりかこむ大気の中を突き進みつつ、溶けながら光を放つ現象です。1時間に数個くらいの割合で出現するといわれますが、1966年、アメリカの夜空に、1分間あたり1000個を超える流星が出現、目撃した人々を驚かせました。この「流星雨」を引き起こしたのが、しし座流星群です。

流星群とは

流星群とは、流星になるちりが群れになって進んでいる場所を地球が通り、ふだんよりたくさんの流れ星が見られるもので、毎年同じ時期に同じ流星群が見られます。流星の数が多く、有名なのは8月のペルセウス座流星群、12月のふたご座流星群です。これらは、最盛時には1時間あたり50個くらいの流れ星を見せてくれます。

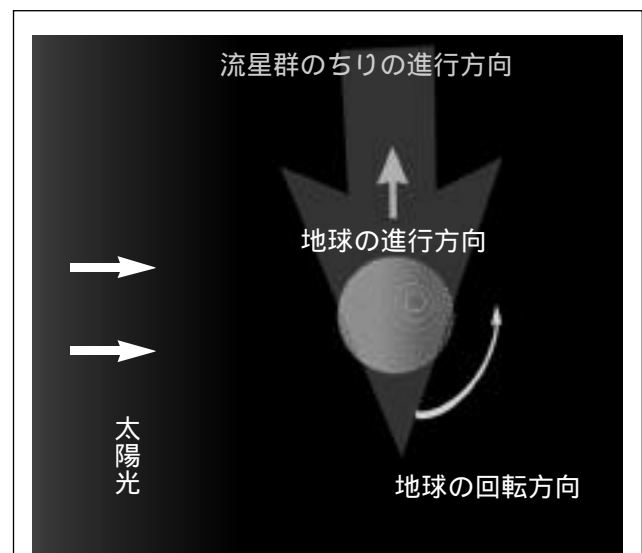
流星群に属する流れ星は、空の一箇所から飛び散るような向きに流れます（流星は空のあちこちに現れます。これは流れる「向き」のことで、そこから流れ出すという意味ではありません）。流星群の名前は一般に、この「輻射点」のある場所、もしくは近い星の名で呼ばれます。

しし座流星群

しし座流星群は、毎年11月17日～18日ころをピークに見られる流星群で、平時には1時間あたり10個程度の流星を出現させますが、33年前後の周期で流星数を増加させ、時として1966年に代表されるような「流星雨」を降らせることがあるのです。そして今、またその周期がやってきています。すでに昨年、月明りのある悪条件の空の中で、明るい流星をたくさん見せています。

今年はいつ？

今年、この群は日本時間で11月18日朝に活動が最も盛んになると予測されています。が、流星のもとになるちりは大変小さいので、流星として夜空に出現するまでは、つまり地球がぶつかってみるまでは、いったいどこにどのように存在するのか、直接見ることはできません。時刻まで正確に予報することは困難で、また、流星数の予想も難しいといえます。18日明け方という予想は、近年の観測データに基づくものです。ただし、軌道の関係から、この流星群の流星が夜空にたくさん見られるのは夜半以降になります。日付が11月18日になったら、要注意です。



しし座流星群が見られるのが明け方になる理由

ちりはほぼ地球の進行方向（図の上方）から衝突してくる。図の地球の左半分は昼で、星は見られない。地球は反時計回りに自転している。ちりが衝突するのは、地球の内でも、夜から朝に移る部分、つまり明け方がわになる。

博物館カレンダー

10月の行事予定

2	金	古文書講読会	講堂
3	土	○ 考古学講座	講堂
4	日	民俗探訪会 ○ こども観察会 地質調査会	中井 土屋 特研究室
8	木	石仏を調べる会	特研究室
9	金	古文書講読会	講堂
10	土	特別展「平塚の仏像」(25日まで)	特展室
11	日	地質調査会	野外
14	水	裏打ちの会 地質調査会	科学室 特研究室
16	金	古文書講読会	講堂
17	土	平塚の空襲と戦災を記録する会	特研究室
18	日	古代遺跡を探す会 ◎ ろばたばなし	野外 展示室
21	水	○ 鎌倉の仏像を訪ねて	野外
22	木	石仏を調べる会	特研究室
23	金	古文書講読会	講堂
24	土	◎ 星を見る会「木星土星」 ○ 考古学講座 天体観察会(星の写真)	屋上 講堂 大磯
25	日	相模川の生い立ちを探る会	谷 峨
30	金	古文書講読会	講堂

◎は参加自由 ○は申込制 他は会員制

● 炉ばたばなし

期日：10月18日(日)
 時間：10時30分と11時の2回 参加自由
 場所：博物館1階展示室の民家内
 内容：仁王か？、200人のどろぼう、蝶子たもれ他

● 特別展記念行事

「鎌倉の仏像を訪ねて」

期日：10月21日(水)
 申込：往復ハガキに住所、氏名、年齢、電話番号を記入し、博物館「鎌倉の仏像を訪ねて」係へ。必ず一人につき一枚の往復ハガキでご応募ください。
 定員：25名。応募多数の場合は抽選で。
 〆切：10月10日

● 星を見る会

「木星と土星」

期日：10月23日(金)、11月27日
 時間：19時から20時30分まで
 場所：博物館科学教室、屋上
 内容：木星、土星と秋の星を観察します。
 参加自由。ただし雨天、曇天時は中止とします。

11月の行事予定

1	日	民俗探訪会 寄贈品コーナー「生物」29日まで	松田 展示室
6	金	古文書講読会	講堂
7	土	○ 考古学講座	講堂
8	日	○ 自然観察会 地質調査会	野外 野外
12	木	石仏を調べる会	特研究室
13	金	古文書講読会	講堂
14	土	地質調査会 ◎ 漂着物を拾う会 ◎ プラネタリウム「流星群の見方」 天体観察会「流星観察の準備」	特研究室 野外 プラネ 科学室
15	日	古代遺跡を探す会 ◎ ろばたばなし ○ 体験学習「わらぞうりを作ろう」	野外 展示室 科学室
18	水	裏打ちの会 地質調査会	科学室 特研究室
20	金	古文書講読会	講堂
21	土	プラネタリウム「ミラ型と呼ばれる星たち」1月10日まで ○ 考古学講座	プラネ 講堂
22	日	相模川の生い立ちを探る会	
26	木	石仏を調べる会	特研究室
27	金	◎ 星を見る会(秋の月) 古文書講読会	屋上 講堂

◎は参加自由 ○は申込制 他は会員制

● 自然観察会「ノギクを探そう」

期日：11月8日(日)
 場所：土屋琵琶周辺
 申込：10月30日までに往復ハガキで。定員30名。

● 漂着物を拾う会

期日：10月14日(土) 午前9時30分～11時
 集合：花水川橋平塚側たもと 参加自由 *雨天中止

● 体験学習「わらぞうりを作ろう」

期日：11月15日(日)
 場所：博物館
 申込：11月8日までに往復ハガキで。定員30名。

● プラネタリウム特別投影

「しし座流星群の見方」

期日：11月14日(土)、15日(日)
 時間：11時と14時の2回
 内容：11月18日未明に見られるしし座流星群について、観察の仕方などを説明します。
 観覧ご希望の方は、1階受付で観覧券をお求めのうえ、三階プラネタリウム室にお入りください。

あなたと博物館

23巻 7号 通巻261号 発行 平塚市博物館 3000

〒254-0041 平塚市浅間町12-41 TEL:0463-33-5111 FAX:31-3949